

Rotary Club of AMA weekly report.



2020~2021年度
国際ロータリーテーマ

ロータリーは
機会の扉を開く

Rotary opens Opportunities



2020-2021年度 RI会長 ホルガー・クナーク
第2760地区ガバナー 岡部 勢
会長 山田 尊久 副会長 稲垣 秀樹
幹事 池崎 晴美
例会日 毎週月曜 例会場 名鉄グランドホテル
【公共イメージ向上委員会】
委員長 大西 晃弘 副委員長 後藤 裕一
加藤憲治・光岡正彦・渡辺 均・山田幹夫

【事務所】〒453-0015 名古屋市中村区椿町17番16号 丸元ビル TEL (052) 451-6617 FAX (052) 451-6710 e-mail: kk01-ama@eos.ocn.ne.jp

2021年 6月 28日(曇り) 第3週 第2352回例会

Song ” 日も風も星も ”
Visitor 滝川林一君、堀田力男君 (津島RC)
Guest 元米山奨学生 トハリ・ディヤ・ラマワ
ティさん
紅谷恵美子さん

Attendance

会員	67名	欠席	8名	出席率	87.88%
----	-----	----	----	-----	--------

President Time 稲垣秀樹 副会長



改めまして、皆さん、こんにちは。いよいよ今年度最後の例会となりました。本年度1年間ご協力いただき、お世話になりました。役員・理事、そして各委員会の委員長はじめすべての会員の皆さまに、会を代表して厚く御礼を申し上げます。

本日は、地区研修・協議会報告と役員・理事の退任挨拶です。本来ですと、すべての役員・理事に退任挨拶をお願いするのが本意ですが、新型コロナ感染拡大防止対策のためかなりの例会の開催が中止となり、委員会活動も思うようにできませんでした。よって、山田尊久会長お一人が代

表して退任挨拶ならびに感謝の言葉をのべさせていただきます。また、各委員長を代表して加藤文彦親睦委員長、板津職業奉仕委員長にも挨拶をお願いしております。そして家田次期会長には地区協議会の報告をお願いします。

さて、会長代行のあいさつをさせていただきます。皆さん、「ウサギとカメ」のお話はご存じでしょうか。内容はだいたい次のとおりです。

1. ウサギは自分の足が速いことが自慢である。2. 足が遅くノロノロと歩くカメをバカにし、山の上まで競走した。3. ウサギは猛ダッシュでカメを大きく引き離す。4. ウサギは途中でカメとの大差に安心し、ついウトウトと居眠りをしてしまった。5. カメは黙々と歩き続け、いつしかウサギを追い越してゴールする。6. ハッと目覚めたウサギは慌てて走ったが、後の祭り。カメの勝利となる。「油断大敵。コツコツ地道に努力しなさい」という内容です。「なぜ、ウサギはカメに負けたのでしょうか」昼寝をしていたからでしょうか。実は、ウサギはカメを見ていた。カメはゴールを見ていたからです。ウサギが走る目的はズバリ「カメに勝つ」ことであり、カメと自分を比較し、自分の優位を確認し、自己満足したいのです。カメの目的はというと、

Today 7月 5日(第2253回)

担当 家田安啓 会長

演題 新年度発会

新役員・理事挨拶

Next Week 7月12日(第2254回)

担当 家田安啓 会長

演題 クラブアッセンブリー

新年度事業計画

「ゴールする」ことであり、途中で投げ出したくなりそう
な自分自身と競争していたのです。この話の続きをご存じ
でしょうか。皆さんがよく知っているお話は一回戦の話で
す。さて、負けて悔しいウサギは、カメにリベンジを申し
込みます。当然昼寝などしませんからウサギの完勝です。
これで、一勝一敗のタイブレークに持ち込みました。ウサ
ギは言いました。「ここまで来たんだから実力で決着をつけ
ようじゃないか。ただし、道具とかを使うのは無しだぜ」
茫然自失のカメ。「一晩考えさせてくれ」と言って、母カメ
のもとへ帰りました。母カメは言いました。「あなたは自分
のフィールドをわかっているの。相手のフィールドで戦っ
ても勝てるわけないでしょ」子ガメはハッと気が付きます。
次の日、カメは三回戦を正式に申し込みます。「ウサギさん、
君が条件を出してきたんだから、ゴールは僕に選ばせてく
れないか」自信満々のウサギはOKします。三回戦はカメ
の勝利に終わります。どうしてだったと思いますか。カメ
の設定したゴールは山のうえではなく、海岸から500m離
れた小島だったのです。ウサギはカメに「道具も何も使う
な」と言ったので、船も浮き輪も使うことができませんで
した。負けて悔しがるウサギは母ウサギに言いました。「今
度は絶対に勝ってやる」とすると母ウサギは言いました。「あ
なたが本当に戦っていたのはカメさんだったの？」一方、
勝った子ガメも、母ガメに勝利の報告をします。母ガメは、
「お前が勝つまでのすべてをもう一度教えてちょうだい」
そこで子ガメは気付くのです。勝った時のうれしさ、負け
た時の悔しさ、あきらめずに取り組んだこと。そして何か
手立てはないものかと苦しみ、そしてそれを乗り越えた時、
苦しみが喜びに変わったこと。そして母ガメはこういいま
す。「こんないろいろなことを経験できたのは誰のお陰なの
かな？」この話をまとめてみます。1. 目標を見誤らない
こと。2. その目標を達成できるまであきらめないこと。
3. 自分のフィールド、つまり自分の役割ををきちんと理
解し、それを果たすことに努めること。4. このような活
躍ができるのも、周りのお陰であるとして、感謝の気持ち
を忘れてはならないこと。本当は自分のことをよくわかっ
ていないものです。「ウサギとカメの教訓から学ぶ」という
お話をさせていただきました。以上で、会長代理あいさつ
を終わります。

Secretary Report

池崎晴美 幹事

1 第1回定例理事会のご案内

日時 7月 5日(月) 17:00

場所 スカイダイニングG 名鉄GH 12F

2 第1回委員長会議のご案内

日時 7月 5日(月) 18:00

場所 スカイダイニングG 名鉄GH 12F

※委員長さん欠席の場合は、必ず副委員長さんにご
依頼ください。



故紅谷君の奥様、紅谷恵美子夫人より、

米山記念奨学会へ寄付をいただきました。



元米山奨学生 トハリ・ディヤ・ラマワティさん

ニ コ ボ ッ ク ス

ご投函有り難うございます

滝川林一君、堀田力男君(津島RC)

1年間お世話になりました。次年度もよろしくお願い
します。

山田尊久 会長

津島RC滝川会長、堀田幹事、ようこそあまRCへ。

トハリさん、久しぶりです。お元気ですか。

会員の皆様、1年間大変お世話になりました。有難うございました。

稲垣秀樹 副会長

山田尊久年度の役員・理事の皆さん、コロナ禍の中大変でしたね。お疲れ様でした。

紅谷君、いつも笑顔を有難うございました。

トハリさん、国際親善よろしくお願いします。

池崎晴美 幹事

紅谷君、いつも笑顔を有難うございました。

トハリさん、国際親善よろしくお願いします。

1年有難うございました。

大竹敬一君

山田尊久年度の役員・理事の皆さん、コロナ禍の中大変でしたね。お疲れ様で

紅谷君、いつも笑顔を有難うございました。

前田重廣君

ニコボックス委員の皆様、ご苦労様。

北野君、サクランボ有難う。

黒野晃太郎君

最終例会、山田尊久会長、池崎幹事、ご苦労様でした。

伊藤英毅君

今日は紅谷君の奥様をお迎えして。

神戸 剛君

山田尊久年度の役員・理事の皆さん、コロナ禍の中大変でしたね。お疲れ様でした。

まだまだ油断大敵です。今しばらく我慢して、明るい未来を導きましょう。

加藤 徹君

クラブ奉仕委員系委員会の皆様、1年間有難うございました。委員会で考えて頂いた数々の幻のアイデアが、他の年度で実現されるといいですね。

家田安啓君

地区研修・協議会の報告をさせていただきます。

加藤憲治君

津島RCの滝川会長、堀田幹事、1年間ご苦労様でした。

木下章吉君

山田尊久年度の役員・理事の皆さん、コロナ禍の中大

変でしたね。お疲れ様でした。

紅谷君、いつも笑顔を有難うございました。

後藤 真君

ワクチン2回目接種の為、早退します。

児玉憲之君

週末は、三重県紀北町の銚子川へハイキング。途中山ヒルにやられて大出血。血が止まらず大変でした。

水野 真君

今年度も終わります。1年有難うございました。

酒井和雄君

山田尊久会長、コロナ下で1年ご苦労さんでした。

田中正博君

本日は山田尊久年度最終例会です。山田尊久会長はじめ役員の皆様、ご苦労様でした。

板津和博君、鈴木與左衛門君、後藤裕一君、加藤春視君

水谷安紀君、小倉廣三君、谷口充子君、横井久雄君

山田尊久年度の役員・理事の皆さん、コロナ禍の中大変でしたね。お疲れ様でした。

合 計 86,000円

地区研修・協議会報告/役員・理事退任挨拶

家田安啓君



2021年4月18日に名鉄グランドホテルで地区研修・協議会が開催されました。コロナウイルスの感染拡大のため、次年度会長及び次年度幹事のための参加で、ソーシャルディスタンスを取り、リアルに開催されました。その他の出席義務者に対する研修・協議会は4月25日にオンラインで開催

催されました。オンラインでの第2部については、関係委員長に報告していただく予定でしたが、緊急事態宣言等で例会が開催できず、本日最終例会にお時間をいただく関係上、私だけの報告とさせていただきます。

4月18日の研修協議会は、午前9時30分から午前の部が開催され、点鐘と実行委員長の開会の挨拶に続いて、ガバナー及びホストクラブ会長の挨拶の後、省名ガバナーエレクトの所信表明が行われました。会長エレクト研修やPETSで聞いていましたが、奉仕活動に対する強い意欲が強調されていました。RI会長のテーマが「奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために」というものですが、英語表記では、「SERVE TO CHANGE LIVES」となっており、そこには、奉仕（SERVE）と変化（CHANGE）という二つのキーワードが含まれています。これを受けて、地区方針が「チェンジロータリー 新時代の成長に！」（コロナゼロ・カーボンゼロ支援）と定められ、具体的な行動方針が語られました。

そのうちのいくつかを紹介します。

まず最初に語られたのが、「クラブの発展なくしてロータリーの発展なし」というものです。これは組織として考えれば当たり前のものです。しかし一歩踏み込んで考えると、個々のロータリアンの発展なくして、クラブの発展もなく、クラブの発展もなければロータリーの発展もないと私は思いました。まず、私たちが仕事を頑張って、例会に参加して情報共有をして、クラブのための時間を作り、親睦が深められることが重要ではないでしょうか。そのうえで、社会に対する奉仕が可能となり、結果としてロータリーのイメージが向上するものではないかと思っています。

次に語られたのがチェンジロータリーです。「親睦を中心としたロータリークラブから奉仕ができるロータリークラブに変わろうとしています。」という説明があり、それが時代のニーズだということでした。その上で、公共イメージ向上を考えた事業を行い、地域社会にインパクトを与えようという説明でした。「内向きの奉仕から外向きの奉仕活動を意識して組織を変えることが必要」だとも言います。2760地区やRIの方向性は変化のようです。そのほかには、「会員の基盤を広げよう」という会員増強に向けた方針が示されました。また「コロナゼロ・カーボンゼロ支援をしよう」というテーマが示されました。ただし、地区の年度のテーマとしては、大きすぎる様に思わないではありません。ロ

ータリアンとしてどうすればよいのでしょうか。具体的な方策を皆さんで検討していきましょう。次に「ロータリーンとしての誇りを高めよう」という方針が語られました。社会に対する奉仕活動をし、その活動をアピールすることで、皆さんの誇りが高まるということでした。ポリオゼロ活動において、全世界からポリオがなくなることで、私たちの誇りや気持ちは高まります。でも、私たちは、やっていることを誇りたいために活動しているのでしょうか。それは本末転倒だと思います。社会からほめてもらいたくから活動するのではなく、ポリオをなくしたいと思うから活動したのではないのでしょうか。私たちのロータリーとしての誇りは、私たちの職業奉仕によって培われるものではないのでしょうか。という感想を持ちました。

午前の部では、各委員会の事業計画の発表がありました。私の勉強不足ですが、26もの委員会があることに驚きましたし、4大奉仕とか5大奉仕といわれていたものが、奉仕委員会をひとまとめにして、地区ロータリー奉仕委員会の下に位置付けられていたことにも驚きを感じました。午後の部では、2750地区のバスターガバナーである服部陽子さんが「変化の時代における公共イメージ向上」について特別講演をされました。やはり、時代は変化を求め、公共イメージの向上を求めているようです。

親睦活動委員会

委員長 加藤文彦君



コロナに振り回され多くのストレスが溜まった一年間でした。数々の描いていた企画…7月-家族例会として、日本初開催のワールドラリー選手権（WRC）観戦ツアー、12月-年末家族例会アゴスティーニとオペラの競演、1月-新春例会は米山奨学生トハリさんらによる楽器演奏、4月-家

族例会は関市の千本桜と有名なぎ店ツアーなどなど、しっかり企画をしたものの残念ながらすべて中止に。誕生日祝い品としての額縁、造花はみなさんに喜ばれたことであろうと自負しています。11月16日には、唯一実行できた例会、ミニコンサート～イタリアの巨匠アゴスティーニ氏と野田親子によるミュージックセラピー音楽会も大成功だったと思います。

委員長として活動し印象的な出来事が2点ありました。1点目、著名な音楽家たちとの触れ合いの中で、自分自身を鼓舞することが出来、長年夢見ていたバイオリン演奏をしようとの決断をしました。先週より初レッスン、まだまだ「キラキラ星」レベルですが、亀のようにゆっくりで地道に練習し、最終目標は大きく、例会でアゴスティーニとの共演とさせていただきます。2点目、先日、妻とアップルウォッチを購入するためにアップルストアに買い物に行きました。最近の若者店員では珍しく？！とても感じの良い子で丁寧かつ爽やかに接客してもらいました。会計も済ませ、最後に名札を見ると、なんと「紅谷」とのお名前が…びっくりして尋ねてみると、紅谷君の姪っ子さんでした。本日、会葬お礼にお越しになられた紅谷君の奥様とお話をさせていただいたのですが、性格もそっくりな姪っさんのようで、たいへんに可愛がっていたとのこと、紅谷君は当委員会のメンバーであり運命的な出逢いに感動を覚えました。このような出来事を通して、人との出会いは大切だなと感じさせていただくことが出来た一年間でした。

最後に、いろいろと支えてくれた小倉副委員長、委員会メンバー、役員・理事の皆様へ感謝の意をお伝えしたいと思います。一年間ありがとうございました。

職業奉仕委員会

委員長 板津和博君

今年度、職業奉仕委員長をさせていただきました、板津でございます。ひとこと理事退任のご挨拶をさせていただきます。

会長方針テーマでもある「建築と環境と人間」に基づいて活動をしてまいりました。職業奉仕委員会としましては、あまRC会員の企業が営む職業を通じて職業奉仕を理解する機会といたしました。今年度は地区補助金事業として社会奉仕委員会と青少年奉仕委員会と連携し、「教室で森を育て



よう」と「山へ植樹しよう」として活動してまいりました。まず「教室で森を育てよう」では、蟹江町の舟入小学校、あま市の宝小学校、大治町の大治西小学校の3校に教室の掲示板に生徒達といっしょに天然木の杉板を張りました。校長先生をはじめ先生方や生徒達から杉板の木の温もりと木の香りが癒されると大変喜んでいただきました。何度もこのコロナ禍により断念しようとしたしましたが、コロナ対策を行いながら予定通り3校とも行うことが出来たのも、山田尊久会長の何が何でもやりたいという強い思いが通じたのではないかと思います。「山へ植樹しよう」では、当初あまRC会員のお子様とボーイスカウトの地域の子供達といっしょに体験していただくよう計画してまいりましたが、残念ながら会長・副会長・幹事・3委員会の委員長にて、あまRCを代表して東白川村の村長に寄付金の贈呈と、山に「あまRCの森」と題して植樹してまいりました。まず、今回の事業に対して渡邊工務店さんには、多くの社員の方に、一年半の長きにわたり多大なるご協力いただきましたこと大変感謝しております。誠にありがとうございました。渡邊工務店さんが国産天然木にこだわる企業理念から、日本の素晴らしい自然と自然の循環、日本の林業の発展をかんがみ、建築業を営む会社として社会に貢献する姿勢に、多くのことを学ばせて頂いたと同時に、渡邊工務店さんの企業理念に職業奉仕に通じる強いポリシーを感じました。この度の職業奉仕委員会の活動において、あまRC会員企業が営む職業を通じて職業奉仕の理念を学ばせて頂くことが出来ました。

この一年間、職業奉仕委員長として理事をさせていただきましたが、まずは準備から一年半以上の長きに渡り共に活動してまいりました、稲垣副会長兼社会奉仕委員長、竹田青少年奉仕委員長及び山田尊久会長、池崎幹事、本当に

ご苦労様でした。そして渡邊工務店さんの澤さん、渡邊さん、森さんをはじめとする社員大工の皆様、長きに渡り大変お世話になり誠にありがとうございました。また、3委員会のメンバーで構成する補助金事業実行委員会の皆様及び職業奉仕委員会の皆様にも多大なるご支援ご協力いただき、この場を借りて深く御礼申し上げます。また、一昨年前の11月に例会にも参加させていただき、資料等、提供していただきました豊川宝飯RCの皆様にも深く感謝申し上げます。この一年間本当に多くのことを学ばせていただき、この経験を今後のロータリー活動に活かしていきたいと思っています。一年間ありがとうございました。

山田尊久 会長



例年、会期中に1回、副会長が会長代行の挨拶をすることになっています。5月17日の例会に稲垣副会長にお願いする段取りになっていましたが、緊急事態宣言の為に休会となり、最後の例会で何とか実現できました。そして先ほどの家田年度の地区研修・協議会の報告も最後の例会で間に合いました。家田次期会長有難うございました。

本来は役員・理事退任挨拶ですが、人数を絞って挨拶をすることになりました。加藤文彦君、板津和博君挨拶ありがとうございました。私よりお礼の挨拶とこれからのあまRCの活動について最後にお話ししたいと思います。

今年の国際ロータリーのテーマは、ホルガー・クナーク会長の「ロータリーは機会の扉を開く」です。「教室で森を育てよう」地区補助金事業はまさしくこのテーマそのものでした。私は2年ほど前の会長エレクト研修で、ロータリー財団の補助金を使った社会奉仕活動の仕組みを初めて知りました。そんな頃、近鉄蟹江駅のプラットホームでばったりと渡辺均君と会いました。名古屋までの10分間、電車

の中であまRCの奉仕活動として地域の子供たちと一緒にあって、環境や森の資源の大切さを勉強する機会を持ちたいと話しました。渡辺君はにこにこしながらずっと聞いてくれました。それから暫くして、たくさんの資料や写真が届きました。これがきっかけとなって地区補助金事業へと進んでいきました。

先日、6月9日ロータリー財団補助金委員会の成田徹委員長より、地区補助金事業の報告書の精査が完了いたしましたとメールをいただきました。ほっといたしました。今回の事業では、申請期限となっていました昨年の3月末までの短い期間の中で、三つの学校の先生、渡邊工務店大工さんとの打ち合わせ、下準備、東白川村の現地の下見までハードスケジュールのなかを、職業奉仕委員長の板津和博君の調整手腕によって若い会員さんをリードしていただきました。本当に感謝しております。

会員の皆さんには、コロナ禍で休会が多くなりご迷惑をかけることが多々ありました。会長に直接電話をいただいたりメッセージを送っていただいたり、励ましていただきました。また、決断を迫られた時など自分の判断が間違っていないか大先輩のもとを訪ね直接相談にも乗っていただきました。そうした行動の一つ一つが私にとって良き選択となりました。重ねてお礼を申し上げます。支えていただきました役員・理事の皆様、各委員会の委員長さん、そして会員の皆様一人一人にお礼を申し上げます。本当に有難うございました。

これからのあまRCの活動について考えを述べたいと思います。特に公共イメージ向上に向け、奉仕活動を進めていくことが大切です。とりわけ地域で文化芸術に功績を残して見える方も各市町村に必ず見えます。そうした人たちの業績を後押しする活動や、作品を発表したり文化的な公演をしたりする場が必要です。金沢21世紀美術館のような、誰でも自由に参加しやすく楽しみのある空間が、この海部地域には今こそ必要だと思います。子供たちを交えた文化発表の基地を作るそんな奉仕活動が、これからあまRCが目指す奉仕活動だと私は考えています。今日、津島RCの滝川会長もお見えになっていますが、海部津島地域の文化向上を目指し連携して地区補助金事業に挑戦するのも有意義だと考えております。

それではこれで、私のお礼の挨拶とさせていただきます。有難うございました。